

●表紙イラスト  
葉 祥明

表紙のことは  
「秋の実り」

私は秋が好きでした。熊本の7月・8月のうだるような暑さも、運動会が始まる頃には、日ざしも和らぎ、朝夕は涼しい風が吹いてきます。枯草色の阿蘇の山々、高い空、色豊かな紅葉した林…今でも、秋が大好きです。今号は、そんな秋の輝かしさ、実り、その中に漂う静けさを表現してみました。

●シーン'09 撮影  
長野良市

第一勧業銀行(熊本市)  
新しいビルが周りに建っていく中で、デザインの斬新さと石の素材の重厚さを、ひと際感じないではいられませんでした。

## 編集後記

■ 第2回県民文化祭イン玉名のテーマ曲「川の流れに」。菊池川の悠々たる流れをイメージしたステキな曲です。県立玉名農業高等学校の手で誕生した「たまいなひゆ。は、色鮮やかな小さな花で、玉名ではこの花をシンボルとして「花と緑の街づくり運動」を展開しています。菊池川の流域に育まれた文化、花、そして音楽一盛り沢山の内容で期待いっぱいです。

■ 「風のコンパス」の写真の波野村・中江神楽。阿蘇地方に数多く残る神楽のなかでもとりわけ、舞いの速さ、袖さばきが大きく優雅です。この中江神楽、来年の1月27～28日、県立劇場で夜を徹して舞われます。身近かに神楽に触れ合えるこのチャンス、見逃せませんね。

## 「くまもとの風」愛読者募集

本誌の年間購読を希望される方は、1年分の郵送料1,500円(250円×6回)分の切手を同封のうえ、下記へお申し込み下さい。  
(随時受け付けます)  
〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号  
熊本県広報課「くまもとの風」係  
☎096-382-9780

## CONTENTS

1-2	風のコンパス—日本農業は西から変る—
3-6	特集—農業ってなあんだ—
7-8	びーぶる—健康を考える会—
9-10	ステップアップKUMAMOTO —熊本国際青少年音楽フェスティバル—
11-12	ふるさと紀行—三和町—
13-14	シーン'09
15-16	ママさんレポート—熊本北部流域下水道—
17-18	30minutesトーク—キング—依万智さん—
19-20	ウォッチング元気図鑑 —玉名VS阿蘇—
21-22	HISTORY OF 熊本人—竹崎順子—
23-24	INFORMATION
25-26	街角便り他



姜信子の韓国通信

## ヨンスギオンマの家で

私は今、毎日のように同じ団地に住むヨンスギオンマの家に遊びに行く。  
ヨンスギオンマは、娘の友達「ヨンスギ」のお母さん。韓国では、会社やかしまった場合は別にして、普通の付き合いの中では子供のいる人を子の名前に「オンマ(お母さん)」「アッパ(お父さん)」を付けて呼ぶ。例えば私は「ナッチャンオンマ」である。  
さて、このヨンスギオンマ、歳は38才。11歳を頭に女の子が4人。何でもはっきりと言い、それでいて嫌味のないさっぱりした人だ。だからこの家には主婦達が集まる。



大田市内のバス停付近

ここで、私が韓国語を理解していようがいまいが構わずに主婦達は話し続け、私も雰囲気分かった気になり一緒に笑う。「冬になったら寒くて外には出られないから家の中で花札をしよう。そのために今からあたしがやり方を教えてあげる」と言うヨンスギオンマを中心に主婦達と一緒に花札を広げる。

花札は日本のものと絵柄もルールも同じ。これは、日本が韓国を植民地にしていた時代の落とし子で、すっかり根付いている。女性がおおっぴらにやるのはいささか気が引ける遊びではあるが、それでも韓国では麻雀よりずっと上品な遊びと聞いた。

ヨンスギオンマの家で主婦達と花札をし、子供の話をし、キムチ作りを習い、時に日本語を教える。「アタマガバカヤロ」だから日本語は難しいと、植民地時代に日本人が使った言葉をヨンスギオンマは無邪気に口走る。「私達はナッチャンを歓迎しているけれど、私の子供が日本に行ったらいじめられんじやないの?」と、真剣に聞く。「日本人は金持ちというけど、ナッチャンオンマ一家は質素だからみんな好感を持っているのよ」と、普通の若い日本人家庭と同じような生活をしている私達に言う。過去の日韓の不幸な歴史が複雑な感情を作り出し、現在の日本の具体的な情報がないことが様々な誤解を生み出す。私はそれを感じつつ、韓国語に苦しみながらも日本のことを話す。

ヨンスギオンマとは、2年後私達が帰国した後に日本の我が家に招く約束をしている。

[付記] 8月号のタイトルの中にあった「어리니」は、「어린이」が正しい綴りです。お詫びして訂正いたします。

## 영숙이 언마집에서

姜信子さん

フリーライター。ノンフィクションコンク普通の在日韓国人」で朝日ジャーナル賞受賞。熊本と韓国の交流推進のため、韓国・忠清南道庁に黒職員として初めて派遣された夫とともに今年5月下旬に渡韓。



韓国の花札



忠清南道庁



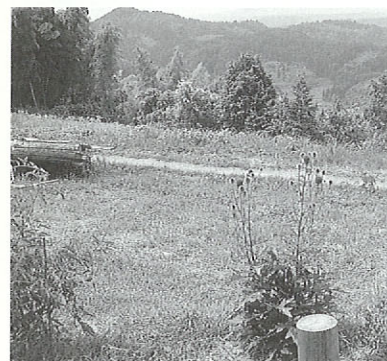
街角便り

## 「野の花」

木村 壽 (59才/白水村)

南阿蘇、白川水源に近い国道沿いに居を構えた。  
家の周囲の修景を、少しでも自然に調和するようにと、阿蘇の野の花で庭の一角を飾った。高まる年令と低下する体力をはね返そうと、夢と希望を抱いている。

子どもの頃、盆花を手折りに原野に行くと、名も知らない草花が一面に咲いていた。ユリ、オミナエシ、ヒゴタイなども、かなり咲いていたのを記憶している。が、近頃はオミナエシは見受けられず、ユリ、ヒゴタイにはほとんどお目にかかれぬ。



野の草花が、人間の文化という名の開発によって、その生きる場を失っていくのは悲しい事である。

知人からもらい受けたヒゴタイの種子を蒔いていたところ、一斉に発芽した。緑の若々しい葉が旺盛な生育を示して、楽しい夢を育んでくれている今日この頃である。

## 「厳にして幽」

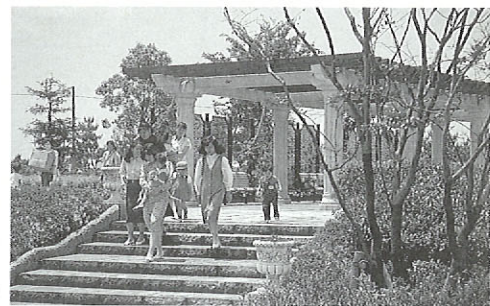
花田 敬三 (44才/熊本市)

先日、あるデパートで、能の定期公演を見た。これまで自分とは縁遠いものであったが、両親から入場券をもらう機会もあって見に行った。何年前かに新能を見たくらいで、何の知識も持っていない。内容はわからないまでも、舞台全体から感じとることが出来る雰囲気は、厳にして幽、正にして居、と言うべきか。この会のモットーが、やる気、元気、根気とあった。あたかも、「この三つの気が無い者は去れ。」とされているような気がした。最初は途中で帰るつもりでいたのだが、ついつい最後まで見てしまった。会が終わるころには、何か清々しい気分になっていた。背筋をピンと伸ばし、はつらつとした気分であつた。

## 「テクノポリス公園にいきました!」

田中 佳子 (30才/熊本市)

先日、銀行に行ったときに「KAZE」をみました。この中にママさんレポートというのがあって、テクノリサーチパークのなかに公園ができたとの話のっていました。



ひょっとすると、県の運動公園と同じようなものかなと思ひ、この前の日曜日に5才と2才の子供たちと一緒にいってみました。公園の近くにきてみると、すごくシャレた建物(じつはこれがテクノポリスセンターだった)があり、その左手にきれいな公園が広がっていました。噴水や芝生がきれいで、子供たちも靴をぬいで精一杯走り回っていました。このあとテクノポリスセンター(自由に入れるんですよ)に行つて似顔絵ロボットに絵を書いてもらひ、子供たちは大満足の様子でした。似顔絵は全部屋に飾ってあります。皆さんにもぜひおすすめしたいところですね。

## 「韓国通信に期待しています。」

J.H. (?才/菊陽町)

8月号から『WORLD・REPORT 姜信子の韓国通信』が始まり、興味深く読ませていただきました。

姜さんの著書「ごく普通の在日韓国人」はもちろん、新聞に連載されている「ふつうの眼鏡」も愛読していました。

「近くて遠い国」韓国。歴史も含めて、現状を知るといことは、日本人にとって大切なことだと思いますが、人をあてにしてはなかなか難しいことです。一度、韓国を訪れたのをきっかけに、少しずつ、自分なりの勉強を続けていた矢先の連載で本当に嬉しく思いました。姜さんの生きた韓国通信に、今後も期待したいと思います。



みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を200~400字程度にまとめてお送りください。  
(採用された方には「風テレホンカード」をプレゼント)

●あて先—  
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1  
熊本県広報課「くまもとの風」係  
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

